

令和6年度第5回
聖籠町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議資料

推進会議で付された意見とその対応

- 令和6年第1回～第4回推進会議における委員発言のうち、施策の検討や行政サービスの改善等に係る具体性の高いご意見を抜粋しています。
- 「選択と集中」の観点などから、全てのご意見を総合戦略に反映することはできませんでしたが、いただいたご意見は今後のまちづくり・町政の参考とさせていただきます。

聖籠町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議事務局

※ 意見を受けて戦略に反映したものについて、着色表示している。

会議日程	ご意見	対応
第1回 (7/30)	児童クラブの支援員に対する発達障がいなどに係る専門的な研修を実施していただきたい。	総合戦略の目的を踏まえ、戦略本文には掲載しませんが、今後の検討事項とします。
第2回 (9/3)	燕市の児童研修館「こどもの森」は、保育士などを配置し、子育てに関する悩みを相談できる体制が整備されている。屋内遊び場の整備に当たっては、ハード面だけではなく、ソフト面への配慮も検討していただきたい。	「屋内遊び場の整備」において、今後の事業展開の中で検討します。
	コワーキングスペースの整備については、全国的にも整備が推奨されているものであり、設備費も少額であるためぜひ検討していただきたい。	定住自立圏(新発田・胎内・聖籠)事業として位置付けられている「キネス天王(新発田市天王)」の利活用に取り組みます。
第3回 (10/18)	地域幸福度(Well-Being)指標の「事業創造」については、主観(40.5)・客観(43.1)ともに低い状況であり、この点を改善できると町の活性化やUIターンの促進など、様々な効果を期待できるのではないかと考える。	新規事業として総合戦略へ掲載します。 (基本目標1・④事業創造の促進・地域の支援機関と連携した創業促進)
	デジタル行政サービスの一つとして、住民と相互利用できるアプリ、ポータルのようなものを、地域幸福度(Well-Being)指標で分析した聖籠町の強みを前面に打ち出して作れると良いと考える。	「デジタル行政サービスの導入」において、今後の事業展開の中で検討します。
	乳幼児期における発達支援について、発達障がいの子どもを早期に「療育」につなげるためには、早期の発見が非常に重要であり、専門家に見てもらう体制を構築していただきたい。	総合戦略の目的を踏まえ、戦略本文には掲載しませんが、今後の検討事項とします。
	多様性は人口減少対策としても非常に重要な観点である一方で、地域幸福度(Well-Being)指標の分析において、「多様性と寛容性」が低く、特に客観指標の多様性政策指数が低いという点が課題として挙げられた。	新規事業として総合戦略へ掲載します。 (基本目標3・①誰もが活躍できるまちづくりの推進・ダイバーシティの推進)
	地域幸福度(Well-Being)指標で分析した町の強みである「地域とのつながりが強い」という点を活かして「ファミリー・サポート制度※」を導入すると良いのではないかと考える。 ※地域において、育児の手助けが必要な人と育児の手助けをしたい人をつなぐ事業	ファミリー・サポート・センター事業については、親同士の交流の場などの支援活動を進めながら、関係機関も含めて検討します。 【第三期子ども・子育て支援事業計画(令和7年度～令和11年度)に盛り込む予定です。】

※ 意見を受けて戦略に反映したものについて、着色表示している。

会議日程	ご意見	対 応
第3回 (10/18)	小・中学校において貸与されるタブレットの運用について、町では宿題のアプリが1種類しかないが、他自治体のように複数から選択できる体制にすると、子どもが主体的に宿題に取り組めて良いと考える。また、授業の中でキーボード入力サポートをしていただきたい。	総合戦略の目的を踏まえ、戦略本文には掲載しませんが、今後の検討事項とします。
	地域幸福度(Well-Being)指標の分析において、「雇用・所得」が弱みとして挙げられた。例えば保育園に預けている時間などの空き時間がある方がいれば、それを潜在的な労働力として、東港立地企業や果樹園等での季節的な労働需要と結びつける事業をやってみても良いかもしれない。県内の複数自治体で、民間事業者が間に入ったマッチング事業を実施している。	近隣自治体に通勤する方が多く、民間の求人サイト等もあることから、現時点では町事業として実施しませんが、労使双方のニーズや他自治体での事例を踏まえ、引き続き事業化の要否を検討します。
	地域幸福度(Well-Being)指標の分析において、「移動・交通」も弱みとして挙げられた。県内の自治体でも導入事例がある「ライドシェア」なども活用が見込めるのではないかと考える。	「循環バスの運行」において、持続可能な公共交通体系の構築及びさらなる利便性向上に向けて、デジタル技術を活用を含めた検討を行うこととしており、ライドシェアの活用も含め検討します。
	「基本目標2:結婚・出産・子育て」の数値目標について、第3期から新たに設定する「子育てに対する満足度」のほか、統計データなどで集計できるのであれば、「結婚率」を追加することも検討していただきたい。	施策の成果が直接的に反映されにくい点も踏まえ、経過として扱うべきであると考えており、データを整理して今後の会議にてお示しします。
第4回 (11/22)	町全体での年間の創業件数を把握できるよう工夫していただきたい。	「地域の支援機関と連携した創業促進」において、町商工会と連携し、町全体の創業件数の把握に努めます。
	若者の新規就農促進に向けては、農業従事者が経験的に分かっているノウハウ・技術の継承が一つの課題であり、ビッグデータやAIを活用した取組を検討していただきたい。	第3期総合戦略の計画期間(令和7年度～令和12年度)においては、スマート農業の導入段階には至らないものと想定しており、今後の事業展開の中で検討します。
	新規就農促進に向けて、近隣の大学等との連携も効果的と考える。	「新規就農者確保対策事業」において、新たに大学と連携した取組を実施します。

※ 意見を受けて戦略に反映したものについて、着色表示している。

会議日程	ご意見	対 応
第4回 (11/22)	創業促進を進めていく中で、他自治体と同じ取組だけではなく、例えばコンテスト形式のイベントによりモチベーションの向上につながる場をつくるなど、全国の中から聖籠町を選んでもらえるような仕掛けを検討していただきたい。	「地域の支援機関と連携した創業促進」において、今後の事業展開の中で検討します。
	単なる創業支援にとどまらず、創業から生業・定住につながっていくような町独自の支援策があると良いと感じる。	施策・事業間で連携した人口減少対策の取組を今後の事業展開の中で検討します。
	しごとづくりの施策一つ一つは良い方向性であると思うが、それぞれの取組で連携する機会が少ないように感じる。農業や観光などの施策間で連携して町の魅力を高めていくために、一つにまとめられるきっかけ、枠組みのようなものがあると良いと考える。	今後のまちづくりの取組において、事業間での連携や町民・関係団体との協働について、効果的に進めて参ります。
	「ほ場整備を契機とした新たな営農体系の構築」のKPI「担い手集積率」について、ゴールがスマート農業を含めた農業の効率化・省力化ということであれば、それを見据えたKPIの設定となるよう検討いただきたい。	第3期総合戦略の計画期間(令和7年度～令和12年度)においては、ほ場整備事業が完了しておらず、スマート農業の導入段階には至らないものと考えています。したがって、「ほ場整備を契機とした新たな営農体系の構築」のKPIは「担い手集積率」として、担い手の組織化や農地集積・集約による経営規模の拡大を推進していきたいと考えています。
	放課後子ども教室におけるボランティアの支援員の質について、不安視するような声も聞かれる。子どもの特性に応じた適切な対応ができるような体制を構築していただきたい。	「放課後子ども教室の運営」において、教育委員会も介入して現場での問題解決を図るとともに、今後については、教員経験者を統括的な役割として各所に配置できる体制を構築するなどを含め、検討していきます。
	以前に、アルビレッジにおいてサッカーを通じた婚活イベントを実施していたが、「アルビレッジを拠点とした地域活性化の推進」の展開に応じて、復活させてもよいかと考える。	「アルビレッジを拠点とした地域活性化の推進」において、今後の事業展開の中で検討します。
	婚活事業における平均カップル率46%という数字は驚異的である。広報に当たって積極的にPRした方がよいと考える。	「結婚の希望をかなえるためのライフデザイン・婚活支援事業の推進」において、効果的な広報を実施できるよう対応します。